

県内企業で副業人材の活用が活発になっている。老舗製茶会社の菊之園(加茂郡白川町)もその一社で、副業マツチングプラットフォーム「スキルシフト」を活用し、大手電子部品メーカーで働く人材から助言をもらい、新たな事業展開を進める。都市部で働く人材を地域経済の活力につなげようと、副業人材の活用を後押しする自治体も増えている。

(青山和史)

「今まで形にできなかったことを実現することができた」と話すのは、菊之園の渡辺和重社長。茶農家の高齢化やお茶需要の減少で主力とする美濃白川茶の販売量が減る中、異業種交流会に参加したり、同業者と情報交換したりして突破口を模索したが、形にはならなかった。取引先の金融機関の紹介でスキルシフトに登録し、2021年秋に「10年後の会社の生存戦略を一緒に考えてくれる人」を募集した。

「こんな山奥の会社に応募があるのだろうか」と心配したが、28人が応募。中小企業診断士の資格を持つ大手電子部品メーカーの男性と面談

都市部の副業人材、活力に

し、一緒に仕事することに決めた。男性の提案で、まずは創業120周年を迎える27年を目標にした経営指針を定めた。

ランディングし直したり、受験生向けに「推し勝つ茶缶白川茶セット」を販売。渡辺社長は「こちらの思いをくんで助言してくれるいい人と出会ったことができた。私を含め社員の意識も変わった」と喜ぶ。

スキルシフトは、企業側が最初に登録料を支払い、応募した人材と業務委託契約を結ぶ仕組み。県内では約90社が利用し、経営戦略の策定や商品PRなどで副業人材の力を借りている。スキルシフトは恵那市、養老郡養老町、白川

製茶会社、大手メーカー社員採用



副業人材のサポートを得て開発した新商品をPRする渡辺和重社長。加茂郡白川町河東、道の駅美濃白川ビアチエーレ

経営や新商品、助言もらう

町、美濃加茂市、加茂郡川辺町と連携協定を締結しており、各市町は登録料や交通費などを支援している。

東濃信用金庫は21年6月、スキルシフトを運営するみらいワークス(東京)と業務提携した。取引先企業が募集する人材像の具体化をサポートしている。担当者は「中小企業にとってコンサルタント会社に頼む費用負担は重荷。副業人材の活用は低予算でできて、具体的な手法を教えてもらえるので喜ばれている」と話す。

菊之園では今後、男性の助言を受けながら飲食店向けにも料理茶を売り込み、需要拡大を目指す。渡辺社長は「売り上げとして成果を出し、町の活性化につなげたい」と話す。